

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤研究（S））中間評価

課題番号	20H05692	研究期間	令和2（2020）年度 ～令和6（2024）年度
研究課題名	ヘルペスウイルスの増殖・病態発現に関する統合的分子基盤	研究代表者 （所属・職） （令和4年3月現在）	川口 寧 （東京大学・医科学研究所・教授）

【令和4（2022）年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>（研究の概要）</p> <p>単純ヘルペス感染症は、多数のアンメット・メディカルニーズがある医学上重要な感染症である。本ウイルスの細胞内への侵入、遺伝子発現、細胞内輸送、免疫応答回避機構など複雑な過程を経て発症に至る。本研究は、これらの統合的な全体像を解析することで、ヘルペスウイルスの感染症の全貌を明らかにし、新規治療への応用に結びつけようとするものである。</p>		
<p>（意見等）</p> <p>当初目標に対し、順調に研究が進展している。単純ヘルペスウイルス（HSV）の増殖・病態発現機構について、オミックス解析を駆使した新規の組織特異的病原因子の同定や、HSVの感染進展度の細胞間不均一性を制御する宿主側シグナル系路の同定、最終エンベロープ獲得における脂質合成の役割と有用な阻害剤の発見等、当該分野における先駆的な成果を上げている。</p> <p>得られた知見に基づき、動物モデルにおいて複数の化合物によるHSV感染阻害効果を認めており、今後、治療薬の開発に大きく貢献する可能性がある。</p>		